

柏市の地域・市民活動団体設立への手引き書

平成28年4月

★ 手引書の使い方 ★

手引書の趣旨

柏市では、第3次柏市生涯学習推進計画の策定に伴い、計画をより効果的かつ実践的に推進するためには、「地域の担い手」である市民の皆さま一人ひとりが自らの地域でより一層輝けるようなきっかけづくりが必要であると考えました。

本手引書は、そうした「地域で輝く」方法の一つとして「地域活動」を取り上げ、活動団体をつくろうとする人の目線から「団体の立ち上げ・展開」の過程を案内しています。

活動団体立ち上げのきっかけや参考になるよう、また既存の活動団体への参加や活動団体同士の連携の促進につながる資料となることを願い、作成したものです。

手引書の特徴

本手引書の構成は「導入編」、「設立編」、「活動編」の3部構成となっています。

導入編では、本手引書が取り上げている「地域活動」とは何かについて図式などを用いて整理し、これから皆さまにご案内する上でのベースとなる内容となっています。

設立編では、活動団体の立ち上げの過程を5つのSTEPに分け、立ち上げに必要なポイントを押さえるとともに、「先輩たちどうだった？」のコーナーを設け、実際に活動されている地域活動団体の代表者へのインタビュー等を参考に、これから立ち上げる人たちに役立つエピソードを発言形式で簡潔にまとめています。

活動編では、活動団体を立ち上げた後の運営方法、活動の拡げ方等について紹介しています。設立編以上に「先輩」たちの声を多く取り上げ、より親しみやすくなっています。

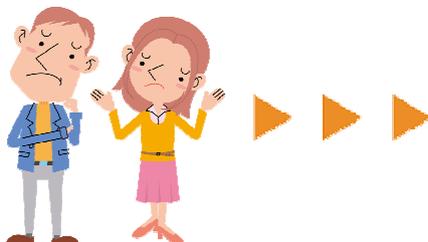




タイプ別の使い方

- これまで関心がなかった
- 始めたい気持ちはあるが難しそう

そんなあなたは・・・



導入編へ！

興味を持つきっかけづくりの資料として使ってみましょう。

- これから活動団体を立ち上げたい
- 立ち上げの途中で手探り状態



導入編 or 基礎編へ！

立ち上げ準備や次の段階に進むための手引きとして使ってみましょう。

- 既に活動団体を運営している
- 新たな組織体制を考えている



活動編へ！

団体の更なる発展や団体間の連携を促進するための手引き・資料として使ってみましょう。

別冊『柏市の地域・市民活動団体の紹介《事例集》』について

地域活動団体は、地域における様々な課題の解決に向けたまちづくり活動を行う団体であり、市民・事業者・市とともに協働のまちづくりを担う重要な存在です。

今回、市ではそのような団体の活動が市民の皆さまに知っていただくことでより住みよいまちの実現につながることに期待し、主に地域の未来を担っていく子どもたちの支援をしている団体を中心にヒアリングを行い、その内容を「事例集」としてまとめまし

この手引書をご覧いただく際には、事例集もあわせてお読みいただければ、より深い理解が得られるものと考えています。



★ 目次 ★

★手引書の使い方	
★この手引書の案内人 1

導入編

★そもそも…「地域活動」ってなあに?? 2
★それって「地域活動」につながるかも!? 3

設立編

STEP 1 「やりたいこと」をみつけよう! 4
STEP 2 仲間を集めよう! 6
STEP 3 「団体活動」の形にしてみよう! 8
STEP 4 活動資金について考えよう! 10
STEP 5 団体をもっと知ってもらおう! 12

活動編

Section 1 仲間を増やそう! 15
Section 2 活動団体を強化しよう! 17
Section 3 活動をつづけること! 20

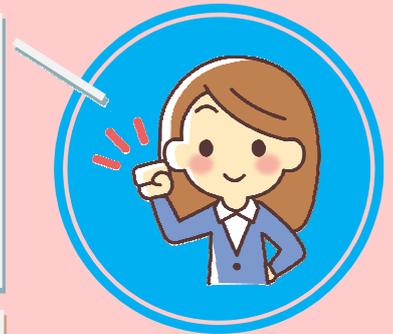
★この手引書の案内人★

これから皆さんに地域活動を楽しくご案内させていただく3人をご紹介します！



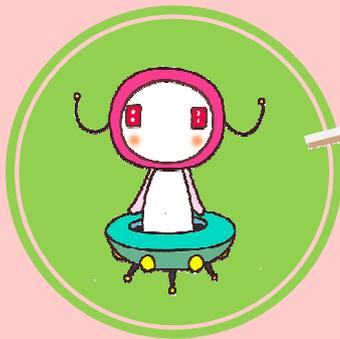
柏博士

柏市のことなら何でも知っている物知り博士。



まいちゃん

博士の助手。
好きな食べ物は「甘納豆」！



ひまわり1号 (通称：ひまちゃん)

博士の作ったロボット。
市の花ひまわりの咲く頃に誕生。

それではさっそく市民活動団体のつくり方を伝授しよう！なァにむずかしいことはない！

大事なのは**1に気持ち、2に行動**、仲間や資金はゆっくり考えればいいことじゃ！

さあ、一緒に始めよう！！！！



導入編

Q そもそも…「地域活動」ってなあに??



ねえねえ、まいちゃん。「市民活動」と「地域活動」と「ボランティア」の違いって知ってる？

えーと…、「自発的」と「営利を目的としない」という点は共通していると思うけど…改めて考えるとなんだか混乱してきたわ…



うむ。確かにこの違いは難しいのう。といのも、どれも明確な定義がなく、「市民活動」と「地域活動」においては同じ意味で用いられている場合もある。

とはいえ、この手引書では下のイメージ図のように捉えることにしよう！

市民活動

① 自立的で ② 営利を目的としない ③ 公益的な 市民の活動

地縁によるつながり

町会・自治会の活動

社会生活を自治的に運営するための、住民による、任意の助け合い活動。

- ・ゴミや資源の分別回収
- ・防犯パトロール
- ・防災訓練
- ・お祭り、運動会
- ・行政機関からの情報の周知
- など

地域活動

地域の様々な課題に対応するための、住民による、任意のまちづくり活動。

- ・子どもたちへの放課後の居場所の提供、学習支援
- ・環境美化活動
- ・多世代が集うコミュニティカフェの運営
- ・自主保育活動
- など

地域団体の活動

一定の地域を基盤にして、社団や団体の代表者で構成される協議体組織が行う、地域の表情に応じた様々な活動。

- ・社会福祉協議会
- ・心るさと協議会
- ・消防団
- ・青少年健全育成推進協議会
- ・民生児童委員協議会
- など

目的によるつながり

ボランティア

自発的な意志に基づき、他者や社会に貢献する行為。

- ・災害時の支援活動への参加
- ・環境保全活動への参加
- ・児童や青少年、高齢者、障がい者、等に関する支援活動への参加
- など

NPO法人の活動

社会貢献やニーズのため、不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的とした、組織的・継続的な活動。

- ・配食サービス、介護タクシー
- ・動物の保護活動
- ・町おこし
- ・息徳商法に対する基礎知識の普及活動
- ・障がい者への職業訓練
- など

※活動の範囲は、特定非営利活動促進法（NPO法）に定められた20分野に限る



Q それって「地域活動」につながるかも！？

博士！私も地域活動をしたいのですが、自分に何ができるのかわからなくなりました…



ふおっふおっ！まいちゃんは難しく考えすぎじゃよ。「地域活動」は簡単に言えば、“**地域のために何かすること**”じゃ。

まいちゃんは、これまでに部活動やサークル、習い事、お手伝いをした経験、特技等はあるかな？



それならあります！私、折り紙クラブの部長でした！それにパソコンも得意です！お手伝いは、母の家事と家のお掃除を少々！



それは頼もしい！そうした知識や経験を地域の人と共有したり、地域の人に教えてあげたりするだけでも立派な「地域活動」じゃよ！

つまり「**地域のことを思う気持ち**」が大事なんじゃ！これがあるだけで、もうすでに**地域活動や地域活動団体立ち上げの第一歩**を歩んでおるといことじゃな！



でも博士、まいちゃんには他にも料理を焦がすという特技があるよ（笑）



はっはっはっ！ひまちゃん、誰しも得意不得意はあるものじゃ。たとえ得意なことが一つなくても、その人に「できること・手伝えること」は必ずあるし、逆に不得意な人の気持ちが他の人より理解できるという点で強みにもなる。なにより、「地域活動」とは本来**気軽**に参加できるものなのじゃよ！ほれ、思い立ったが吉日じゃ！さっそくみんなで行ってみよう！



—ここでのポイント—

「**地域のことを思う気持ち**」
＝**地域活動団体立ち上げの第一歩**！



設立編

STEP 1

「やりたいこと」を見つけよう！

1. “あったらいいな”を考える
2. “あったらいいな” → 「やりたいこと」に
3. + α で「オリジナリティ」を



焦らずに、一歩一歩進んでいこう！

1. “あったらいいな”を考える

くらしの中の“あったらいいな” = 地域の課題

皆さんは、地域で日々生活をしている中で“あったらいいな”と思うことはありませんか。「この道にちょっと休めるベンチがあったら」、「子どもを遊ばせながらママたちがおしゃべりできる場所があったら」、「この川がもっとキレイだったら」一。

くらしの中の“あったらいいな”は「地域の課題」です。どうです？ほら、見つかってきたでしょうー？

先輩たちはどうだった??



私はせっかくできたママ友と、子どもが大きくなってからも繋がっていたいなーとの思いから立ち上げましたよ。

私は地域を元気にしたくてね。お年寄り子ども、若者など多世代とのつながりが築ければと思ったのがきっかけです。



私は地域の川が汚れているのが悲しくて…。次の世代にホテルが見られるくらいきれいにしたいと思っていますよ！



STEP 1

「やりたいこと」を見つけよう！

2. “あったらいいな” → 「やりたいこと」

「先輩さがし」と「5W1H」

さて、暮らしの中の“あったらいいな”を思いついたら、次はそれをもっと具体的に、「やりたいこと」に昇華させましょう。

有効なのは「先輩さがし」です。インターネットでの検索や市や関係機関への問い合わせ、友人・知人からの情報収集などで“あったらいいな”を実行している「先輩」や「先行事例」を見つけましょう。

そして収集した情報を5W1Hを使って整理し、イメージを肉付けていくと良いでしょう。ここでの情報整理は後々の「仲間作り」においても大変役に立ちます。

5W1H…「いつ（When）、どこで（Where）、だれが（Who）、なにを（What）、なぜ（Why）、どのように（How）」



もちろん、調べていく過程で、自分のしたいことが出来そうな団体が見つければ、そこで活動するのもアリじゃ！

市内の既存の団体はインターネットで「らんらんかしわ」、「かしわん、ぽっ？」等で、子育てサークル・団体は「はぐはぐ柏」で検索できるし、男性メインの団体は『柏おやじ図鑑』を見れば、情報が得られるぞ！

3. +αで「オリジナリティ」を

「オリジナリティ」を入れてみよう

「やりたいこと」が固まってきたら、「先輩」団体や先行事例と比較して「オリジナリティ（独自性）」を加えてみましょう。

目的に独自性を見出してもよし、活動場所や活動日、活動時間に独自性を見出してもよし！です。

—ここでのポイント—

「やりたいこと」+「オリジナリティ」
=新しい活動



STEP 2

仲間を集めよう！

STEP 2

仲間を集めよう！

1. 「やりたいこと」を話してみよう
2. 仲間集めの範囲を広げよう



ステップ2では、
思いの「共有」
が重要じゃ！

1. 「やりたいこと」を話してみよう

「仲間」ってなあに？—身近なところからはじめよう—

ステップ2ではいよいよ仲間づくりに入ります。皆さんは「仲間」と聞いてどのような関係を連想しますか？学校や部活、サークル、自然に同じ「時」を過ごしてきた人たちでしょうか、それとも同じ目的に向かって歩もうとしてくれる同志でしょうか。

地域活動団体における「仲間」とは「同じ目的に向かって歩んでくれる」人たちです。まずは、家族や友人など身近な人に自分の「やりたいこと」を話すことから始めてみましょう。また、地域活動に参加してその参加者に声をかけてみるのも有効です。

「いいねえ！」のその先へ—理解者、支援者、仲間をつくる—

さて、話してみていかがでしたか？「それ、いいねえ！」とってくれた人、それは皆さんの今後の活動にとって非常に力になってくれる人かもしれません。相手の状況と賛同してくれたポイントをよく聞いて、部分的なお手伝いなど無理のない範囲から協力を求めてみましょう。もちろん「一緒にやりたい！」という人は「仲間」決定、大歓迎ですね！

また、「厳しいんじゃないかな」という意見も前向きに受け止めましょう。話すことで「やりたいこと」を見つめ直し、さらに良い内容にしていきましょう。



分かりやすく伝えるには 5W1H にポイントをおいて話してみてね。
特に活動を進めていくにあたっては、家族の理解が非常に重要になってくるよ！

活動資金等について市の支援制度を利用したいなら、5人以上を応募条件としているものが多いから意識しておくことじゃな！
もちろん、県や財団の支援制度では人数制限がないものもあるし、支援制度を受けずに活動している団体もたくさんおるから安心せい！



2. 仲間集めの範囲を広げよう

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用しよう

身近な人に話してみたけど、あまり協力が得られそうにないし、やっぱりやめようー。ちょっと待った！そうした状況でも諦めるにはまだ早いのです！皆さんの「やりたいこと」に協力してくれる人は探し方を変えれば案外見つかるかもしれません。

SNSをご存知ですか？最近では耳にする人も多いはず。SNSは、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称で、友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する、会員制のサービスのことです。

Facebookはその代表的なものです。SNSには自分のプロフィールや写真を会員に公開する機能や、互いにメールアドレスを知られること無く別の会員にメッセージを送る機能、友人に別の友人を紹介する機能、趣味や地域などテーマを決めて掲示板などで交流できるコミュニティ機能などがありますので、自分の「やりたいこと」を発信してより多くの人に知ってもらう有効なツールといえます。

先輩たちはどうだった??



私は交流のあるパパさんたちに話してメンバーになってもらいました。同じ状況の人に話してみたのが良かったかな！

私はママ友に話した後、Facebookを活用しました。登録してプロフィールや「投稿」でこういうことをしたいって書いてみたら友人の友人から良い反応があって、そこから広がりましたね！



私は自営業を営んでいるから地域活動に充てられる時間が不規則で、なかなかメンバーが集まりませんでした。でも、ある地域活動に参加した時に仲良くなった人に声をかけてみたら、その人が興味のある人を紹介してくれて。話してみるものだなあって思いました！

—ここでのポイント—

仲間集めは「やりたいことを話し」、
「思いを共有する」ことから始めよう！



STEP 3

「団体活動」の形にしてみよう！

STEP 3

「団体活動」の形にしてみよう！

1. 「やりたいこと」→「団体活動」に
2. 活動場所の見つけ方



団体活動の土台となる体制づくりをしていこう！

1. 「やりたいこと」→「団体活動」に

活動日、活動時間、活動場所、活動資金等の検討

仲間が集まって次にすることは、「やりたいこと」を「団体活動」の形にするということです。この手引き書では、導入編において、地域活動のことを「地域の様々な課題に対応するための、住民による任意のまちづくり活動」と定義しました。地域の課題に対応するためには、多くの場合一定程度継続して活動する必要がありますので、仲間と話し合い、継続的に活動しやすいよう「活動日」や「活動時間」、「活動場所」、「活動資金」等について、無理のないスケジュールを組みましょう。

特に「活動場所」と「活動資金」の確保は、活動準備における重要ポイントのため、「活動場所」の確保については次の項目で、「活動資金」の確保についてはステップ4でご案内します。

役割はどうやって決めているの？

さて、地域活動において決める必要のあることの一つに「役割」があります。役割の種類は団体によって様々ありますが、「代表」と「会計」については団体に共通した役割となっておりますので、初期の段階で決めておいた方が良いでしょう。

役割は基本的には話し合いで決めるべきものであり、発案者＝代表者とは限りません。それぞれのメンバーの得意なことを活かして役割を考えましょう。また、代表など固定的な役割以外のものについては、その日集まったメンバーの中で決めていく、あるいは自発的に「できること」をしていくという運営の仕方も多く採用されています。

代表の心構えとは？

「代表」は団体の顔として様々な場面で表に立つこととなりますが、「代表だからみんなを引っ張っていかなくては」と気負う必要はありません。長く活動していくためには「誰かに任せられる環境」づくりを心掛け、メンバーが横一線の緩やかなまとまりを目指してみましょう。

2. 活動場所の見つけ方

公共施設を活用しよう

活動場所の確保は団体にとって難しいとされることの一つであり、その方法にはメンバーの自宅を利用する、あるいは山や川などの屋外で活動する、「拠点」を確保・創設するなどがありますが、まずは県民もしくは市民に広く門戸が開かれている公共施設の利用を検討してみましょう。

〈利用可能な主な公共施設〉

公共施設予約システムで予約が可能♪

近隣センター

- ・市内23カ所。コミュニティ活動の拠点
※柏中央近隣センターは「アミュゼ柏」内
- ・会議室、実習室、和室、体育室、多目的ホールなど
※施設の種類は各センターにより異なる

スポーツ施設

- ・体育館、公園、運動場・運動広場、テニスコート、野球場、プール、サイクリングコース

公民館

- ・中央公民館
- ・会議室、実習室、和室、音楽室など

アミュゼ柏 (文化施設)

- ・文化施設(クリスタルホール、プラザ、リハーサル室)
- ・コンサートや演劇、講演会、各種発表会、展覧会等で利用可能

児童センター (しこだ・豊四季台・高柳児童センター)

- ・就学前の児童と保護者の支援、子どもの居場所、地域の人たちとのふれあいの場
- ・貸出対象: 児童の健全な育成を目的とした団体やボランティア
- ・子どもが遊ぶスペース、食事スペースなど
※施設の種類、名称は各センターにより異なる

中央老人 福祉センター

- ・地域の高齢者に対して、相談、健康の増進、教養の向上やレクリエーションのための便宜などを提供
- ・貸出対象: 60歳以上の市内在住者が構成員の過半数を超えていること
- ・大広間

地域福祉 センター

- ・地域住民の福祉の増進および福祉意識の高揚を図ることを目的として、地域住民の福祉ニーズや地域の実情に応じた各種福祉事業を行う、地域における福祉活動の拠点
- ・会議室、和室

柏市市民 活動センター

- ・市民公益活動団体の活動拠点
- ・会議室、作業室、オープンスペースなど

リフレッシュ プラザ柏

- ・南増尾にある南部クリーンセンターのごみ焼却余熱を利用した余熱利用型健康増進施設
- ・会議室、食べ物工房(実習室)、和室、多目的ホールなど

柏市青少年 センター

- ・青少年の研修や講習の場
- ・貸出対象: 市内在住・在勤の青少年、指導者(青少年育成者)
- ・研修室、多目的集会室、和室、キャンプ場、グラウンドなど

さわやかちば 県民プラザ

- ・柏市にある千葉県教育委員会が運営する県立の施設
- ・会議・研修室、実習・実験室、和室、多目的室など

千葉県立 手賀の丘 少年自然の家

- ・社会教育、宿泊学習等を目的とした青少年教育のための宿泊研修施設
- ・貸出対象: 4人以上の団体及び家族
- ・創作室、和室(研修室)、宿泊室、体育館、グラウンド、プラネタリウム、多目的ホール



「公共予約システム」は直接施設に行かなくてもパソコンやケータイから空き状況の確認や予約が出来ちゃうんだ！

—ここでのポイント—

「継続的な団体活動」は、活動場所や資金等に関する、緩やかで柔軟な体制づくりが大事！



STEP 4

活動資金について考えよう！

STEP 4

活動資金について考えよう！

1. 活動資金について知ろう
2. 支援制度を活用しよう



ここでは活動資金の基礎知識を紹介しよう。一部の支援制度は、「活動編」でも詳しく説明しておるぞ！

1. 活動資金について知ろう

運営費と活動費

必要経費の種類は、大きく分けて会を運営するための「運営費」と活動を行うための「活動費」、専門家・専門業者への費用である「委託費」に分けられます。例えば、同じ印刷費でも用途によって運営費と活動費のどちらに分類されるかが変わってきます。

自主財源と外部財源

財源の種類は、大きく分けて会費や売上金などの「自主財源」と助成金や協賛金、寄付などの「外部財源」に分けられます。自主財源のみで活動資金を賄うのも良いですし、外部財源をバランス良く活用していくのも良いでしょう。

〈必要経費と財源の種類〉

必要経費の種類																		
運営費 〈会の運営に係る費用〉	活動費 〈活動に係る費用〉	委託費 〈専門家への委託に係る費用〉																
<ul style="list-style-type: none">・定例会の会場費・会議等の資料印刷費・運営に係る通信費 etc.	<ul style="list-style-type: none">・活動に必要な備品購入費・イベントのポスター等の印刷費・勉強や研修等に係る費用 etc.	<ul style="list-style-type: none">・活動のコンサルティングに係る費用・マップやチラシ活動の成果物などの編集費 etc.																
財源の種類																		
自主財源		外部財源																
会費	<ul style="list-style-type: none">・会員から年会費を集める・会員の種類で金額を分けている団体もある 例： <table border="0"><tr><td>正会員</td><td>個人</td><td>賛助会員</td><td>個人・団体</td><td>ホライフ会員</td></tr><tr><td></td><td>法人・団体</td><td></td><td>法人</td><td></td></tr><tr><td></td><td>学生</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	正会員	個人	賛助会員	個人・団体	ホライフ会員		法人・団体		法人			学生				助成金	<ul style="list-style-type: none">・行政や社会福祉協議会、財団、企業等が団体の運営や活動を支援する制度・所定の手続きに従って申請し、審査後に交付が決定・用途の指定や、活動の報告書の作成義務が生じる場合がある
正会員	個人	賛助会員	個人・団体	ホライフ会員														
	法人・団体		法人															
	学生																	
売上金	<ul style="list-style-type: none">・イベントを主催し、参加費や出店料などを集める・団体で作成した作品や食品等の販売で集める	協賛金	<ul style="list-style-type: none">・主に企業が、活動やイベントに協力して行う資金提供・協賛企業名は、ポスターやパンフレット等へ掲載する															
持ち寄り	<ul style="list-style-type: none">・運営や活動に必要な資金や道具、材料等を会員が各自または分担で持ち寄り	寄付	<ul style="list-style-type: none">・個人や企業、団体に寄付金を募る・運営や活動に必要な場所、道具、材料等を無償で提供してくれる場合もある															

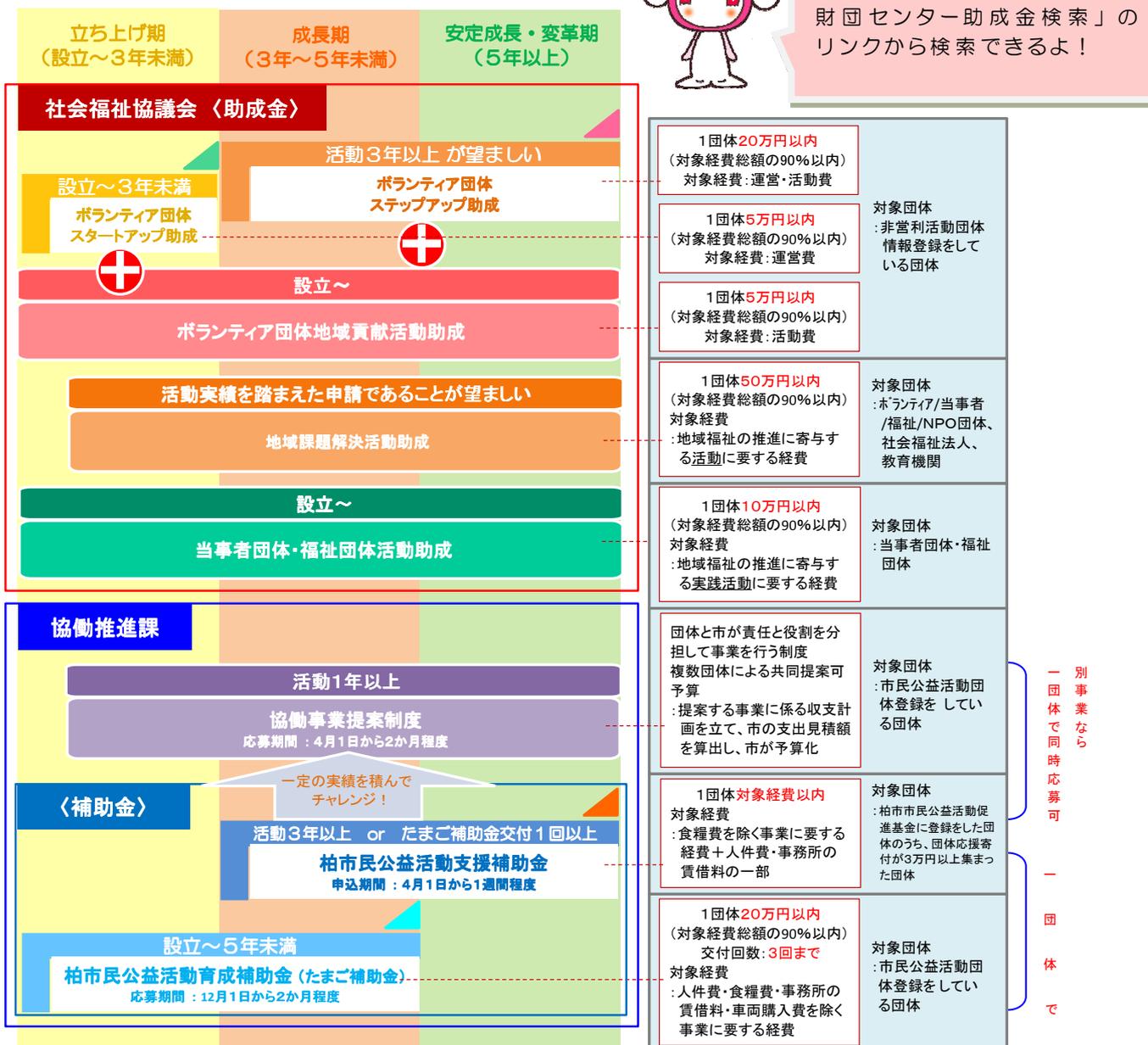
2. 支援制度を活用しよう

支援制度利用に向けて一名簿、規約、事業計画、予算、目的等一

支援制度は、制度によって応募資格や支援内容が異なりますが、**団体名簿、規約・会則、事業計画、予算書、設立・活動目的、活動の概要・内容**は、申請の際に団体概要の必須項目であったり別途提出を求められたりすることが多いので、あらかじめ準備をしておくとうまくいきます。

支援制度の担当課等とも相談し、団体の状態に見合った制度を見つけましょう。

〈主な支援制度〉



STEP 5

団体をもっと知ってもらおう！

STEP 5

団体をもっと知ってもらおう！

1. 団体の情報を知ってもらうには？
2. データベースを活用しよう



いよいよ設立編も最後のステップ！
とはいえ、団体情報の発信は、活動前の必須事項ではないぞ。
まずは活動してみ、団体に合った発信方法を探していくのも理にかなったことじゃ！

1. 団体の情報を知ってもらうには？

団体情報を知ってもらおう

「設立編」の仕上げであるステップ5では、団体の情報を知ってもらう方法についてご紹介します。団体の情報を広く知ってもらうことは、仲間の新規加入による団体のさらなる発展や地域からの信頼を得ることにおいて非常に有益です。

団体情報を知ってもらう主な方法としては、データベースに登録して団体概要や活動内容、活動予定等を公開し随時あるいは定期的に発信（更新）する方法と、市報、地域の掲示板等を活用し定期的にそれらを発信する方法、会報を会員以外からアクセス可能にして定期的に公開・発信する方法、団体で作成したホームページやSNSを通じて、団体概要等の固定的な情報とともに、活動予定や活動報告等を団体の任意のタイミングで随時あるいは定期的に発信（更新）していく方法があります。

次の項目では、設立時でも有効に利用できるデータベースや広報での情報発信の仕方についてご案内します。

〈主な情報発信の方法〉



会報やホームページ作成時の工夫等については、「活動編」で先輩たちの経験談を参考にまとめているわ！



2. データベースを活用しよう

目的に合ったデータベースを選ぼう

ここでは、発信の第一歩として比較的容易に取りかかれるものとして、市や社会福祉協議会が運営しているデータベースや市報での情報発信の仕方についてご案内します。

データベースへの登録は公共施設の利用や支援制度の利用時に必須となっている場合もありますが、基本的には、団体の活動内容や情報を知らせたい対象、データベースの特徴等を考慮して、目的に合った登録してみましょう。

〈主なデータベース・媒体〉



活動編

セクション1・・・P

仲間を増やそう！

もっと人材が必要で、仲間を増やしたいけど・・・

1. 新たな仲間を増やそう！
2. 仲間はどこで集めるの？



セクション2・・・P

活動団体を強化しよう！

活動が大きく、もっと拡充するため団体を「組織化」した方がいいかな・・・

1. 組織の力をつけよう！
2. NPO 法人を検討しよう！

セクション3・・・P

活動をつづけること！

つづけることとは？

1. 活動資金を確保しよう！
2. 周知・広報活動をマメにしよう！
3. 他の団体・関係機関等と連携・協働しよう！

活動団体が設立した後、特に必要だと思われるセクションを選んで、参考にしてね。



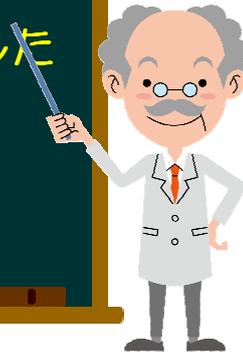
Section 1

仲間を増やそう！

Section 1

もっと人材が必要で、仲間を増やしたいけど・・・

1. 新たな仲間を増やそう！
2. 仲間はどこで集めるの？



焦らずに、一歩一歩進んでいこう！

1. 新たな仲間を増やそう！

活動を充実させ、つづけるために。

活動をより充実して持続させていくには、同じ世代ばかりで活動するのではなく、できるだけ多くの仲間や協力者により様々な年齢の人達と、それぞれの役割を担う人材が必要となってきます。地域のニーズに応える活動を継続させていくためにも、新たな仲間を獲得していくことが重要です。

また、喜びを分かち合える「仲間」は活力でもあることから、活動の力も比例して大きくなることでしょう！

2. 仲間はどこで集めるの？

地縁によるつながりから

活動している地域では、様々なつながりがあると思います。

また、喜びを分かち合える「仲間」は活力でもあることから、活動の力も比例して大きくなることでしょう！

これまでの実績を生かし、周囲の人たちに活動を理解してもらいながら、仲間を必要としていることを伝えましょう！

仲間ができることで、地域のつながりが密に広がっていきます。

活動目的によるつながりから

地域でのつながりだけでなく、多くの仲間を増やすには、まずは活動内容の目的を理解してもらうことが重要です。

これまで仲間を集める方法として、口コミや SNS を活用したように、有効な手段や情報について、ボランティアや協力関係の団体、NPO 法人等の登録・所属団体の情報等へのアンテナをハリながら、活動への理解と仲間を増す対策をつづけていくことが重要です。

また、団体の目的を理解してもらうために、活動の体制や内容が見えるようなオープンな環境づくりをしましょう！

先輩たちはどうだった??



仲間の口コミや、活動に参加した人が新たに入ったよ。

活動が楽しそうだと、人は寄ってくるので、すかさず声をかけています。



「思いが一致できる」メンバーさん達とやっていくのが良いと思う。

きちんとした活動をすれば、認められてどんどん輪が広がっていきます。



長く活動してきたけど、主なメンバーが年を取ってきたので、活動を継続していくためには、担い手となる若者への世代交代が必要となっています。

—ここでのポイント—

「誰もが役割」＋「楽しい」
＝新しい仲間と広がる人生の潤い



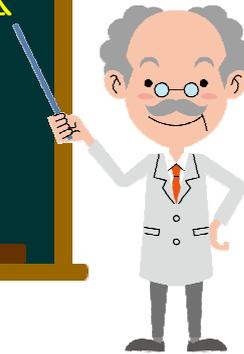
Section 2

活動団体を強化しよう！

Section 2

活動が大きく、もっと拡充するため団体を「組織化」した方がいいかな・・・

1. 組織の力をつけよう！
2. NPO 法人を検討しよう！



1. 組織の力をつけよう！

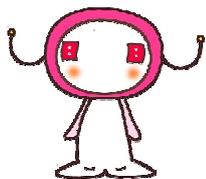
組織づくりで大切なこと

これまでより多くの人材と仲間が増えると、組織として構築することが重要です。

まず体制としては、事務局がしっかりすることが重要です。リーダー任せだけではなく、それぞれの役割の一つとして団体運営を中心とした部門と人材を確保することで、円滑な活動を目指します。

また、これまでの活動の中で、リーダーや特定の人に負担がかかっている場合は、話し合い等のコミュニケーションを基本に、各個人の役割を明確にして責任を担うことで、誰もがやりがいを感じるような体制を整えることも必要です。

活動内容とともに組織体制を整えてスムーズな運営団体は、周囲への理解が深くなり評価が上がるので、多くの協力者が集まり、地域や他の団体との連携・協働が生まれ、活動の幅が広がり充実していきます！



団体の設立から活動が軌道に乗るまで、リーダーの力が大きいと思いますが、将来的に活動を充実させ継続していくには、組織の力や引き継ぐ人の確保など準備しておく必要があります。

2. NPO 法人を検討しよう！

目的に合ったデータベースを選ぼう

本書の「導入編」に「地域活動」の説明があり、あらためて NPO 法人を確認すると、社会貢献を目的とした団体であることは皆さんの活動と同じですが、法人格（個人以外で権利や義務の主体となり得るもの）を持つと権利主体等が異なります。

「NPO」とは「Non-Profit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。これは、収益を目的とする事業を行うこと自体は認められますが、事業で得た収益は、様々な社会貢献活動に充てる団体となります。

このうち、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人を、「特定非営利活動法人(NPO 法人)」と言います。NPO 法人を設立するためには、所轄庁に申請をして設立の「認証」を受けることが必要です。認証後、登記することにより法人として成立することになります。

メリット・デメリットについて

NPO の法人格を持つメリットとしては、法人の名の下に取引等を行うことができるようになり、団体名義での契約締結や土地の登記など、団体がいわゆる「権利能力の主体」となり、団体自身の名義において権利義務の関係を処理することができるようになります。さらに、NPO 法人のうち実績判定期間(直前の2事業年度)において一定の基準を満たすものとして所轄庁の「認定」を受けた法人は、認定特定非営利活動法人(認定 NPO 法人)となり、税制上の優遇措置を受けることができます。

法人格を持つ負担としてのデメリットは、毎事業年度初めの3カ月以内に、前事業年度の事業報告書、計算書類及び役員名簿等を作成しなければなりません。また、これらの書類は、すべての事務所に備え置き、社員及び利害関係人に閲覧させるとともに、所轄庁に提出し、閲覧又は謄写させる必要があります。さらに、他の法人と同様に、法人税や消費税及び地方税などいろいろな税金が課せられる場合があります。

NPO は法人格の有無を問わず、様々な分野(福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力など)で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されていますが、今後さらに大きな活動として事業展開するには、支援事業や助成金、情報及び活動場所の提供などが得やすい環境となる権利主体の団体運営、NPO 法人を検討しましょう！

〔参照：「内閣府 NPO ホームページ」より〕

先輩たちはどうだった??



メンバーや協力者が、基本的な活動の趣旨や目的を共通理解し、「思いが一致できる」仲間たちとして活動することが大切です。



リーダーは、はっきりと活動方針を関係者に伝え、立ち上げ時の“熱とハート”を大切に！



皆それぞれ役割分担し、信頼して任せ、代表が一人で背負わないことが大切です。



メンバー皆が活動を楽しみ、喜びを感じる内容にすることが重要です。



団体構成員の資質向上を図るとともに、自分の「できないこと」に気づき、相手の「できること」を活用できるようにします。



上から目線の命令や指示では、団体がすぐに崩壊してしまうので、メンバーの階級をなくし横一線で活動することを心がけています。



市などへ積極的に相談し、理解と支援を受けてもらうようにしています。



活動内容について毎回反省会を実施し、参加者にも・地域にも進化してゆく姿を認めてもらうことが大切です。



活動場所や事務局等の拠点について、市内施設の確保が非常に困難であるため、組織力を高めるとともに周囲の理解や支援による対策及び工夫が必要です。

Section 3

活動をつづけること！

Section 3 つづけることは？

1. 活動資金を確保しよう！
2. 情報発信をマメにしよう！
3. 他の団体・関係機関等と連携・協働しよう！



1. 活動資金を確保しよう！

経費等について

どのような活動にも最低限の経費がかかり、多くの団体が苦勞されていると思います。

リーダー等の特定の人の負担だけにならないように運営しないと、長い活動が困難になるので、次の対策を改めて確認して検討しましょう！

◇会費

会員から年会費を集め、自主運営する方法です。

そのため、魅力ある活動であることが重要であり、多くの会員や参加者を集めることが大切になります。

◇売上金

イベントなどを企画実施して参加費を集めたり、まつり等への出店販売等による売上金を集める方法となります。

◇助成金や補助金

公的機関や企業等の民間組織から、地域活動団体への制度で、活動経費や事業費として支援されます。

◇協賛金・寄付金

主に企業等の民間事業者から、活動やイベントの際に資金を集めます。

また、社会貢献活動への理解を基に、個人や企業、団体からの寄付金等を集めます。

先輩たちはどうだった??



メンバー、ボランティアの金銭的負担が極力少ないようにしています。

イベント・フリーマーケット（春・秋）の開催、参加等の事業収入の売り上げが大きいです。



市や社会福祉協議会、町会、企業などの助成金の情報収集及び申請による資金を獲得しています。

「協賛金」を集めるため、企業等への訪問依頼をしています。



資金援助の依頼については、理念と活動計画とともに、真摯な活動を伝えることが大切です。

個人や企業などの営利目的にならないようにしています。



費用がかかるものに関しては、駐車場代も含めてボランティアも参加者も自己負担のため、ボランティアを簡単に誘えません。



会費以外の収入を、増加させることが難しいです。



2. 情報発信をマメにしよう！

周知・広報活動に大切なこと

周囲に活動と団体を知ってもらうことは、多くの人達への理解と評価が高まることで、様々な協力や支援を受けられるなど、活動がしやすい環境となります。

そのため、継続的な周知・広報活動は大変重要なことです。

情報発信の方法などは、それぞれ特徴があり、これまでに行ってきた周知・広報活動や事例をもとに、自分の団体や活動地域に合った効果的な方法を実施しましょう！

また、人に認識してもらうには継続的な活動が必要なため、マメに情報発信をするなど、広報に力をかけましょう！

団体や活動の情報発信は、主に先輩たちの経験から方法があるよ！



先輩たちはどうだった??



◇チラシ配布・ポスターの活用



チラシ・リーフレットの作成配布やポスターの掲載をしました。
また、事業ごとにチラシやポスターを作成し、公共機関をはじめ目的に応じた場所に配布および設置したりもしたよ。

◇会報・新聞・地域メディア等の活用

会報誌や機関紙、ニュースレター等を発行したよ。賛助会員（サポーター）、市内幼稚園・小学校に郵送して、活動の内容、思いなどを伝えました。また、近隣センター、図書館などに置くほか、行事に参加してくれた人にも配ったよ。
地域メディアの活用としては、新聞、生協などに取材依頼して、記事にしてもらいました。
ほかに、DM（ダイレクトメール案内）も頑張ったよ。



◇インターネットの活用



インターネットは、HP（ホームページ）を開設・運営・更新（随時）してます。ブログは操作が簡単なので情報が更新しやすいですよ。
最近では、facebook（フェイスブック）やツイッターがいいよね！
ほかに、関係者へ直接の電子メールで案内などもがんばっています。

◇各関係機関・施設と連携した情報発信等

市の広報紙に掲載できたら、よく知られていいよ！
地域の新聞、同種の連絡会が発行するニュースレターにお願いするのもいいね。
特に地域では、「ふるさと協議会」や関係施設にお願いして情報発信したこともあるよ。
定期的に近隣センターにチラシ等の掲示、パンフレットの常設もしてくれてる。さらに、ふるさと協議会のホームページに載せてもらうことも相談した方がいいね。

また、地域の学校への活動のお知らせ（チラシ配布・回覧物等の周知）を依頼したり、学校から自主的に活動の情報が発信（HP等）がされるようになった。
他の例として、会場となるショッピングセンター等のホームページに紹介してもらうなど、共催事業については協働機関が広報を担ってくれることもあったよ。



◇イベントや講師などの依頼を受けて



イベントに協力したり、柏市や近隣市町村からの依頼で講師を受けて、その講演会で宣伝も出来たので、お誘いには積極的に参加した方がいいね！

情報発信で、効果的な例を、先輩たちに聞いてみたよ！



先輩たちはどうだった??



◇事業や対象者、エリアにより情報媒体を変更



ホームページ、ブログは全国エリアとして、新聞などは主な活動エリアの広域範囲で、各活動場所においては各地域エリアでの関係機関や団体等への広報依頼してます。

他にも、地域に合った広報媒体を検討するといいと思うよ。

◇効果的な広報場所

会報誌や機関紙、ニュースレター等を発行したよ。賛助会員（サポーター）、市内幼稚園・小学校に郵送して、活動の内容、思いなどを伝えました。また、近隣センター、福祉センター、図書館、公民館等などに置くほか、行事に参加してくれた人にも配ったよ。活動拠点や地域において、確実に活動情報がみれるよう、掲示の場所を確定することも大事ですよ。



◇イベント等への広報活動



近くの小中学校に、夏休み前や新入生学校説明会でチラシを配布したよ。

また、地域のイベントの際に募集ポスターを掲示したり、チラシ配布や声掛けもしたな。

◇ホームページ（HP）、ブログ等は更新が大事！

HPは、ほとんど毎週に更新をしているよ。
 参加者のアンケートを毎回アップしていることもあり、参加の親のほぼ全員がブログを見ているようです。また、ブログはコメントが残せる形で、それに対する返信コメントも載せています。
 ツイッターやフェイスブックなどは、直接的に情報交換できるので有効ですよ。さらに、SNS（フェイスブック等）はブログとリンク
 SNS作業などは、若いスタッフや協力者に任せ、担い手を育て周知してもらおうことも考えられるね。



◇連携した広報活動



地域のふるさと協議会や所属機関・団体との連携はお互い必須だね。
 関係団体（学校等）からの情報発信もしてくれたことがあるよ。
 例えば、多くの人が地域の町会に所属していることから、広報誌の配布（小中学校、地域近隣センター等）は行政に配布を依頼することもあったよ。

◇何より強い広報媒体は口コミ！

地域に浸透するまでは、メンバーが自発的に動き、口コミで知り合いを呼んだりして身内から輪を広げていったんだ。
 関係者による「口コミ」、活動参加者からの口コミ、“ママ友”などへの「口コミ」が本当に効果的だから、良い活動を続けてね。



3.積極的に連携・協働しよう！

地域のネットワークから連携・協働しよう！

活動拠点における地域において、団体やその代表としての役割や評価が根付いてきていると思います。まだ、地域との関わりが少ないところは、是非、その地域の自治会や他の活動団体、行政等の各組織・団体とのネットワークを生かした連携協働をしていきましょう。そのつながりは、きっと自分たちの団体としてのニーズを高め、地域社会への貢献力を強くすることになります。

活動目的から他の団体や関係機関等と連携・協働しよう！

活動目的と同様の団体と連携することは、個別の団体規模における活動範囲を一気に広げることになります。

また、これまでの活動をさらに活性化する情報や協力が得られ、必要としている地域等にとっても大きなメリットとなることが考えられるので、積極的に他の団体や活動内容の情報を検索し、連携・協働を推進していきましょう！

先輩たちはどうだった??

より広域に活動内容を知ってもらえ、場所の確保やPR（広報）などが助かる一方、いろいろな情報が入手できました。

助け合うことでより良いものができ、新たな交流が生まれました。

いろいろな人に会え、思いを共有できる仲間が増えました。

他地域のものに協力・応援することで自分たちの会の確認もでき、メンバーの自信にもつながっていきました。



—ここでのポイント—

「資金」＋「周知」＋「連携」
＝活動の持続力



柏市内で活発に活動されている団体の紹介として、
「団体事例集」もあるので、参考に見てね!!

